

■単元名 『大鏡』～相互交流を通して解釈・鑑賞しよう～

木城 知則

単元計画

| 単元名 | | 『大鏡』～相互交流を通して解釈・鑑賞しよう～ | | |
|---------|---|---|---|---|
| 単元目標 | | ①伝統的な言語文化への興味・関心を深めようとする。(関心・意欲・態度) ②解釈を通して、登場人物たちの行動やそれを支える論理・判断の基準などに、どのような視点があるかを考えることができる。(読む能力) ③文学史を踏まえ作品の世界観を理解し、古文を時代を超えた一続きの言語文化として、巨視的に作品を捉えることができる。(知識・理解) | | |
| 単元の評価規準 | | 関心・意欲・態度 | 読む能力 | 知識・理解 |
| | | 老翁の昔語りという『大鏡』独特のスタイルを踏まえて、伝統的な言語文化への興味・関心を深めようとしている。 | 登場人物たちの行動やそれを支える論理・判断の基準などに、どのような平安貴族の社会的視点があるかを読み取っている。 | ①文学史を踏まえ作品を鑑賞し、世界観を理解しようとしている。 ②古文を時代を超えた一続きの言語文化として捉え、巨視的に作品鑑賞している。 |
| 時間 | 各時間の目標 | 主な学習活動 | 各時間の具体的評価規準及び指導の手立て | |
| 1 | 「道長の豪胆」 ①肝試しに至る状況を理解する。 ②道隆・道兼・道長三兄弟の描かれ方を把握する。 | ①文学史を確認する。 ②「道長の豪胆」を音読する。 ③登場人物を整理する。 ④前半部分を口語訳し、解釈する。 ⑤道長の態度が他の二人と異なること確認する。 | ①老翁の昔語りという『大鏡』独特のスタイルを踏まえて、伝統的な言語文化への興味・関心を深めようとしている。(関心・意欲・態度) ②文学史を踏まえ作品を鑑賞し、世界観を理解しようとしている。(知識・理解) 評価方法：発言内容、机間指導、観察 【指導の手だて】 1 文学史について理解不足の生徒には、便覧等で確認させる。 2 口語訳を文法事項に依拠して論理的に行うことを指示する。 | |
| 2 | 「道長の豪胆」 ①肝試しの結果を理解する。 ②道長の豪胆さを理解する。 | ①後半部分を口語訳し、解釈する。 ②道長の「沈着」な面について把握する。 | ①解釈を通して、登場人物たちの行動やそれを支える論理・判断の基準などに、どのような視点があるかを考えることができる。(読む能力) 評価方法：発言内容、机間指導、観察 【指導の手だて】 1 既読の『大鏡』の文章を参考に、語り手の道長に対する認識について考察するよう指示する。 2 口語訳を文法事項に依拠して論理的に行うことを指示する。 | |
| 3 | 「道長の豪胆」 (本時の学習) ①道長の人物像を把握する。 ③道長を中心に、『大鏡』が理想として描く人物像の特色について考える。 | ①道長、道隆、道兼の描かれ方を比較し、道長の人物像を把握する。 ②登場人物たちの行動やそれを支える論理・判断の基準などに、どのような視点があるかを考え、深く人物像を把握する。 ③『大鏡』が理想として描く人物像の特色を把握する。 グループ活動 | ①解釈を通して、登場人物たちの行動やそれを支える論理・判断の基準などに、どのような視点があるかを考えることができる。(読む能力) ②古文を時代を超えた一続きの言語文化として捉え、巨視的に作品鑑賞している。(知識・理解) 評価方法：発言内容、自己評価シート、机間指導 【指導の手だて】 1 本文に依拠し、論理的に道長の人物像を把握するように促す。 2 個人の意見をまとめ、他者と相互交流しながらグループの意見をまとめるように指示する。 3 「道長の豪胆」に固執せず、『大鏡』全文、あるいは平安文学全体に視点を置き、読解の深化を図るよう指示する。 | |

学習指導案

| | | | | |
|---|-----------------------------------|--|---------------------------------|--|
| 本時(第3時)の目標 | | 1. 解釈を通して、登場人物たちの行動やそれを支える論理・判断の基準などに、どのような視点があるかを考えることができる。 (読む能力) 2. 文学史を踏まえ作品の世界観を理解し、古文を時代を超えた一続きの言語文化として、巨視的に作品を捉えることができる。 (知識・理解) | | |
| 資料 | | ワークシート, 自己評価シート | | |
| | 学習内容 | 学 習 活 動 | 時間 | 指導上の留意点及び評価の実際 |
| 展 展 開 | 導入 本時の目標の確認 | 本時の目標を確認する。 | 5 | 目標を板書する。 ワークシートを利用する。 |
| | 1 道長の人物像の把握 | 1 道長, 道隆, 道兼の描かれ方を比較して, 道長の人物像を把握する。 〔個人〕 2. 登場人物たちの行動やそれを支える論理・判断の基準などに, どのような視点があるかを考え, 深く人物像を把握する。 ○グループで意見を相互交流する。 〔グループ〕 グループ活動 | 45 | <p>① 解釈を通して, 登場人物たちの行動やそれを支える論理・判断の基準などに, どのような視点があるかを考える。(読む能力)</p> <p>評価方法: 発言内容, 机間指導</p> <p>○本文に依拠し, 論理的に道長の人物像を把握するように促す。</p> <p>○登場人物たちの行動やそれを支える論理・判断の基準などに, どのような視点があるかを考え, 論理的に, 深く人物像の把握をするように指示する。</p> <p>○個人の意見をまとめ, 他者と相互交流しながらグループの意見をまとめるように指示する。</p> <p>○文学史の知識(『大鏡』独特のスタイル), 古文(平安時代)特有の背景等, これまで学習した知識を総合して解釈することを気付かせる。</p> <p>○相互交流では, 意見を論理的に組み立て, 相手に伝わるように表現することを指示する。</p> <p>② 古文を時代を超えた一続きの言語文化として捉え, 巨視的に作品鑑賞している。 (知識・理解)</p> <p>評価方法: 自己評価シート, 机間指導</p> <p>○他者, 他グループの意見を参考にして, 自己の意見を再構築し, 深化させるよう指導する。</p> <p>○ワークシートや自己評価シートの内容を確認し, 不十分な場合は, 具体的例示から再指導する。</p> |
| | 2 道長を中心に『大鏡』が理想として描く人物像の特色についての理解 | 2 道長を中心に『大鏡』が理想として描く人物像の特色について考える。〔個人〕 ○相互交流の結果を参考にして, 各自, 考察する。 〔個人〕 論理的な読解の深化 | | |
| まとめ まとめ 本時のまとめ 単元のまとめ 次時の確認 | ワークシート, 自己評価シートをまとめ, 提出する。 | 5 | ワークシート, 自己評価シートは完成させてから, 提出させる。 | |